

1.	①	11.	④	21.	①	31.	②	41.	④
2.	①	12.	①	22.	②	32.	④	42.	②
3.	③	13.	④	23.	①	33.	②	43.	②
4.	④	14.	③	24.	④	34.	②	44.	②
5.	③	15.	④	25.	③	35.	④	45.	①
6.	④	16.	④	26.	②	36.	①	46.	④
7.	②	17.	④	27.	④	37.	④	47.	③
8.	①	18.	②	28.	④	38.	①	48.	②
9.	③	19.	③	29.	②	39.	②	49.	①
10.	④	20.	④	30.	②	40.	③	50.	②

1.

解答 ①

【解説】

正解は①「(天候・味が) 穏やかな、軽い」です。`mild`は形容詞で、激しさや厳しさがなく、穏やかで優しい状態を表します。気候が「温暖な」こと、味が「まろやかで」刺激が少ないこと、人の性格が「温和な」ことなど、幅広い対象に使われます。`This cheese has a mild flavor.` (このチーズはまろやかな風味だ)。`He is known for his mild and gentle personality.` (彼は温和で優しい性格で知られている)。②「野生の」は`wild`、③「湿った」は`wet`や`humid`、④「厳しい」は`severe`や`harsh`で、`mild`の対義語にあたります。

◆補足：`mild`は、病気の症状などが「軽い」ことを表すのにも使われます。`a mild fever` (微熱)、`a mild headache` (軽い頭痛)。

2.

解答 ①

【解説】

正解は①「お返しに」です。`in return`は、「返礼として、見返りに」という意味の熟語で、何かをしてもらったり、もらったりしたことに対して、こちらも何かを返すという状況で使われます。`She helped me with my report, so I treated her to lunch in return.` (彼女は私のレポートを手伝ってくれたので、お返しに私が昼食をおごった)。②「順番に」は`in turn`、③「結局は」は`in the end`、④「詳細に」は`in detail`がそれぞれ適切な表現です。

◆補足：`in return for` ~の形で「~のお返しに」と、お返しの対象となる行為を明確にすることもできます。`He received a promotion in return for his hard work.` (彼は勤勉さの見返りに昇進した)。

3.

解答 ③

【解説】

正解は③「(横の) 列」です。名詞の`row`は、人や物が横一列に並んだものを指します。劇場や教室の座席の列や、表の行などが典型的な例です。`Our seats are in the fifth row from the front.` (私たちの席は前から5列目です)。①「法律」は`law`、②「低い」は`low`、④「生の」は`raw`です。これらは`row`と発音が似ている、あるいは`o`と`a`の音の違いだけなので、リスニングで特に注意が必要です。

◆補足：`in a row`で「連続で」という意味の重要な熟語になります。`It has rained for three days in a row.` (3日間連続で雨が降っている)。動詞の`row`は「(ボート) をこぐ」という意味で、発音が「ロウ」となり、名詞の「列 (ロウ)」と同じです。

4.

解答 ④

【解説】

正解は④「簡単に、容易に」です。`easily`は副詞で、苦労や困難なく物事が行われる様子を表します。`I can easily carry this suitcase. It's not heavy.` (このスーツケースは簡単に運べます。重くありません)。①「熱心に」は`eagerly`、②「特に」は`especially`、③「正確に」は`exactly`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`easily`は、形容詞`easy` (簡単な) の副詞形です。`y`で終わる形容詞を副詞にするには、`y`を`i`に変えて`-ly`を付けるのが基本ルールです。また、最上級を強調して「断然、間違いなく」という意味で使われることもあります。`She is easily the most talented musician in the group.` (彼女はグループの中で断然最も才能のある音楽家だ)。

5.

解答 ③

【解説】

正解は③の`guide`で、名詞として二つの主な意味があります。一つは、観光地などで案内をする「案内人、ガイド」です。もう一つは、旅行案内書などの「手引き、案内書」です。`Our tour guide was very knowledgeable and friendly.` (私たちのツアーガイドはとても知識が豊富で親切だった)。他の選択肢は、①`guard`が「警備員、護衛」、②`guy`が口語で「男、やつ」、④`grade`が「学年、等級、成績」という意味です。

◆補足：動詞の`guide`は「～を案内する、指導する」という意味です。`Could you guide me through the process?`（その手順を案内していただけますか?）。`a tour guide`（ツアーガイド）、`a guidebook`（ガイドブック）。

6.

解答 ④

【解説】

正解は④「平均、標準」です。名詞の`average`は、複数の数値を合計してその個数で割った「平均、平均値」や、一般的で普通の「標準」を意味します。`The average temperature in this city is 15 degrees Celsius.`（この都市の平均気温は摂氏 15 度だ）。`His grades are well above the class average.`（彼の成績はクラスの平均をかなり上回っている）。①「年齢」は`age`、②「角度」は`angle`、③「利点」は`advantage`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`average`は形容詞として「平均的な、普通の」、動詞として「平均して～になる」という意味でも使われます。`the average person`（平均的な人）。`on (the) average`で「平均して、概して」という熟語になります。

7.

解答 ②

【解説】

正解は②の`lose one's balance`で、「バランスを失う、よろける」という意味です。`one's`の部分には`my`、`your`、`his`などの所有格が入ります。立っているときや動いているときに、体の安定を失うことを表します。`He slipped on the wet floor and lost his balance.`（彼はぬれた床で滑ってバランスを崩した）。他の選択肢は、①`lose one's mind`が「正気を失う」、③`lose one's way`が「道に迷う」、④`lose one's temper`が「かんしゃくを起こす、かっとなる」という、それぞれ`lose one's`を使った重要な熟語です。

◆補足：`keep one's balance`で「バランスを保つ」という反対の表現になります。`balance`は名詞で「均衡、バランス」、動詞で「～のバランスをとる」という意味です。

8.

解答 ①

【解説】

正解は①「（銃などを）撃つ、（シュート）する」です。動詞の`shoot`は、「（銃や矢など）を撃つ、発射する」という意味が基本です。また、サッカーやバスケットボールなどでゴールやバスケットを狙ってボールを放つ「シュートする」という意味でも使われます。`He shot an arrow at the target.`（彼は

的に向かって矢を放った)。②「叫ぶ」は`shout`、③「振る」は`shake`、④「閉める」は`shut`です。これらは音が似ていて紛らわしいので注意しましょう。

◆補足：`shoot`の活用は`shoot - shot - shot`と不規則に変化します。また、名詞形も`shoot`で「(植物の) 新芽」や、映画や写真の「撮影」を意味することもあります。`a photo shoot` (写真撮影)。

9.

解答 ③

【解説】

正解は③「～を歩き回る」です。`walk around` ～`は、「～を散策する、ぶらぶら歩く」という意味の熟語です。特定の目的地なく、ある場所のあちこちを歩くことを表します。`Let's walk around the park after lunch.` (昼食の後、公園を散策しよう)。①「～を通り抜ける」は`walk through` ～`、②「～から離れる」は`walk away from` ～`、④「～に向かって歩く」は`walk toward` ～`がそれぞれ適切な表現です。

◆補足：`around`には「～の周りに、あちこちに」という意味があります。`look around` (見回す) や`travel around` (旅行して回る) のように、他の動詞と組み合わせて使われることも多いです。

10.

解答 ④

【解説】

正解は④「～を傷つける、けがをさせる」です。動詞の`injure`は、事故やスポーツなどで、人や動物の体に害を与えることを表します。`He injured his back while lifting a heavy box.` (彼は重い箱を持ち上げているときに背中を痛めた)。①「～を招待する」は`invite`、②「～を尋ねる、調査する」は`inquire`、③「～を主張する」は`insist`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：受け身の`be injured` (けがをする) の形で使われることが非常に多いです。`Three people were injured in the car accident.` (その自動車事故で3人が負傷した)。名詞形は`injury` (けが、負傷) です。`hurt`も「傷つける」ですが、`injure`はより深刻で、医学的な治療を要するようなけがを指す場合が多いです。

11.

解答 ④

【解説】

正解は④「～から逃げる」です。`get away from` ～`は、「～から逃げる、～から離れる」という意味の熟語です。物理的に場所から離れることや、比喩的に好ましくない状況や日常から離れることを表します。`He wanted to get away from the pressures of his job.` (彼は仕事のプレッシャーから逃れたか

った)。①「～と仲良くやる」は`get along with ~`、②「～から降りる」は`get off ~`、③「～を通り抜ける」は`get through ~`です。

◆補足：`getaway`と一語になると「(短期の) 休暇、逃亡」という意味の名詞になります。`a weekend getaway to a hot spring resort` (温泉地への週末の小旅行)。

12.

解答 ①

【解説】

正解は①「邪悪な、有害な」です。形容詞の`evil`は、道徳的に非常に悪い、邪な状態を指します。物語に出てくる悪役や、非常に不道德な行為などを表現するのに使われます。`The story portrays a battle between good and evil forces.` (その物語は善と悪の勢力の戦いを描いている)。②「空の」は`empty`、③「平等な」は`equal`、④「熱心な」は`eager`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`evil`は名詞として「悪、害悪」という意味でも使われます。`Money is the root of all evil.` (金は諸悪の根源だ) ということわざは有名です。対義語は`good` (善、良い) です。

13.

解答 ④

【解説】

正解は④の`remain`で、「～のままでいる、依然として～である」または「残る、とどまる」という意味の動詞です。状態が変わらないことや、ある場所に居続けることを表します。`Even after the argument, they remained friends.` (口論の後でも、彼らは友達のままだった)。他の選択肢は、①`remember`が「～を思い出す」、②`repair`が「～を修理する」、③`require`が「～を要求する」という意味です。

◆補足：`remain` + 形容詞 (～のままでいる) の形でよく使われます。`Please remain seated.` (どうぞ座ったままでいてください)。名詞形は`remains`で、複数形で「残り物、遺跡、遺体」といった意味になります。

14.

解答 ③

【解説】

正解は③の`on (the/an) average`で、「平均して、概して」という意味です。いくつかの数値をならして、平均的な値や頻度を述べるときに使います。`On average, a person blinks about 15 times per minute.` (人は平均して、1 分間に約 15 回まばたきをする)。他の選択肢は、①`on business`が「仕事で、出張で」、②`on purpose`が「わざと、故意に」、④`on sale`が「特売で」という意味の、それぞれ`on`を使った重要な熟語です。

◆補足：`on average`の形が最も一般的に使われます。文頭や文末に置かれることが多いです。前の問題の`average`（平均）という名詞を使った表現ですね。

15.

解答 ④

【解説】

正解は④の`anyway`で、「とにかく、いずれにせよ、ともかく」という意味の副詞です。前の発言の内容や状況に関わらず、本題に戻ったり、話題を変えたり、追加の情報を述べたり、あるいは単に文を終えたりする際に使われる便利な言葉です。`I'm not sure if it's the right decision, but I'll try it anyway.`（それが正しい決断かは分からないが、とにかくやってみるつもりだ）。他の選択肢は、①`anywhere`が「どこでも」、②`always`が「いつも」、③`almost`が「ほとんど」という意味です。

◆補足：`anyway`は文頭、文中、文末のいずれにも置くことができます。`I was tired, but I went to the party anyway.`（疲れていたが、それでもとにかくパーティーに行った）。`Thanks anyway.`は、相手の申し出を断った後などに「(でも) ありがとう」という気持ちを伝える定番の表現です。

16.

解答 ④

【解説】

正解は④の`bother`で、「～を悩ませる、困らせる、～に面倒をかける」という意味の動詞です。人に迷惑をかけたり、心配させたり、あるいは邪魔をしたりすることを表します。`Don't bother your father while he is working.`（お父さんが仕事をしている間は、邪魔をしてはいけません）。他の選択肢は、①`brother`が「兄弟」、②`border`が「国境、へり」、③`bottom`が「底」という意味です。

◆補足：`Don't bother to do`や`don't bother doing`の形で「わざわざ～しなくていいよ」という、相手への気遣いを表す表現としてもよく使われます。`I'm sorry to bother you.`（お邪魔してすみません）は、誰かに話しかける際の丁寧な前置きです。

17.

解答 ④

【解説】

正解は④の`at least`で、「少なくとも、最低でも」という意味です。数量や程度が、ある基準より少なくはないことを示します。`You need at least three years of experience for this job.`（この仕事には少なくとも3年の経験が必要です）。他の選択肢は、①`at last`が「ついに、とうとう」、②`at most`が「多くても、せいぜい」（`at least`の対義表現）、③`at once`が「すぐに、同時に」という意味の、それぞれ`at`を使った重要な熟語です。

◆補足：`at least`は、話題を転換したり、譲歩したりする際に「まあ、少なくとも」という意味でも使われます。`The hotel was expensive, but at least it was clean.`（そのホテルは高かったが、まあ、少なくとも清潔ではあったよ）。

18.

解答 ②

【解説】

正解は②の`remember`で、「～を覚えている、思い出す」という意味の動詞です。過去の出来事や情報を心に留めておき、それを呼び起こすことを表します。`I still clearly remember the day we first met.`（私たちが初めて会った日のことを、今でもはっきりと覚えています）。他の選択肢は、①`remind`が「～に思い出させる」、③`regret`が「～を後悔する」、④`remain`が「～のままでいる」という意味です。`remember`が主語自身の記憶の働きを指すのに対し、`remind`は他者や物が主語に記憶を呼び起こさせるという違いがあります。

◆補足：`remember to do`（忘れずに～する）と`remember -ing`（（過去に）～したことを覚えている）の使い分けは非常に重要です。`Remember to lock the door.`（ドアに鍵をかけるのを忘れないで）。`I remember seeing him at the party.`（パーティーで彼に会ったのを覚えている）。

19.

解答 ③

【解説】

正解は③「娯楽」です。`entertainment`は、映画、音楽、テレビ番組、スポーツ、ゲームなど、人々を楽しませるための活動や催し全般を指す名詞です。`The hotel offers a wide variety of entertainment for its guests.`（そのホテルは宿泊客のために多種多様な娯楽を提供している）。①「環境」は`environment`、②「設備、機材」は`equipment`、④「雇用」は`employment`です。

◆補足：動詞形は`entertain`（～を楽しませる、もてなす）です。`He is good at entertaining guests.`（彼はお客さんをもてなすのが上手だ）。`the entertainment industry`で「芸能界、エンターテインメント業界」となります。

20.

解答 ④

【解説】

正解は④の`successful`で、「成功した、うまくいっている」という意味の形容詞です。目標を達成したり、望ましい結果を得たり、あるいは社会的・経済的に高い地位を得たりしたことを表します。`The advertising campaign was highly successful.`（その広告キャンペーンは大いに成功した）。他の選択

肢は、①`successive`が「連続する、引き続く」、②`sufficient`が「十分な」、③`stressful`が「ストレスの多い」という意味です。

◆補足：`successful`は名詞`success`（成功）の形容詞形です。動詞形は`succeed`（成功する）です。`She is a successful entrepreneur.`（彼女は成功した起業家だ）。`be successful in ~`で「～において成功する」という形でよく使われます。

21.

解答 ①

【解説】

正解は①「日記、日誌、専門雑誌」です。`journal`は複数の意味を持つ名詞です。一つは、日々の出来事や考えを記録する「日記、日誌」です。もう一つは、特定の専門分野に関する論文などが掲載される「定期刊行物、学術雑誌」です。`He keeps a travel journal.`（彼は旅行日誌をつけている）。`This article was published in a scientific journal.`（この記事は科学専門誌に掲載された）。②「旅」は`journey`、③「ジャーナリスト」は`journalist`、④「宝石」は`jewel`です。

◆補足：`journal`と`diary`はどちらも「日記」と訳せますが、`diary`がより個人的な感情を綴るものであるのに対し、`journal`はより客観的な出来事の記録というニュアンスが強い場合があります。ジャーナリスト（`journalist`）は、`journal`に記事を書く人、と関連付けて覚えることができます。

22.

解答 ②

【解説】

正解は②「他の、もう一方の」です。形容詞の`other`は、すでに述べられたものや、今あるものとは違う、残りのものを指します。`Are there any other options?`（何か他に選択肢はありますか?）。また、二つあるうちの「もう一方の」という意味でも使われ、その場合は`the`を付けて`the other`となります。`I have two brothers. One is a doctor, and the other is a teacher.`（私には兄弟が二人いる。一人は医者で、もう一人は教師だ）。①「全体の」は`whole`、③「それぞれの」は`each`、④「どんな～でも」は`any`です。

◆補足：`other`を含む表現は非常に多く、それぞれ用法が異なるため正確に覚えることが重要です。`another`（（三つ以上あるうちの）別の不特定の一つ）、`others`（他の人々・もの）、`each other`（お互いに）など、文法問題で頻出します。

23.

解答 ①

【解説】

正解は①「従業員」です。`employee`は、会社や個人に雇われて給料をもらって働く「被雇用者、従業員、社員」を意味する名詞です。`The number of employees at that company has doubled.`（その会社の従業員数は2倍になった）。②「雇用主」は`employer`で、`-ee`（～される人）と`-er`（～する人）の対比で覚えると効果的です。③「応募者」は`applicant`、④「敵」は`enemy`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`employee`は動詞`employ`（～を雇う）から派生した言葉です。名詞の`employment`は「雇用」を意味します。`full-time employee`（正社員）、`part-time employee`（パートタイマー）。

24.

解答 ④

【解説】

正解は④「(社会や文化の) 習慣、風習」です。`custom`は、ある社会や文化、地域に根付いている「しきたり、ならわし」を意味する名詞です。`Giving gifts to your host is a common custom in many countries.`（ホストに贈り物をするのは、多くの国で一般的な習慣だ）。①「(個人の) 癖」は`habit`で、個人的な行動を指します。②「衣装」は`costume`、③「顧客」は`customer`です。これらはつづりが似ているので、混同しないようにしましょう。

◆補足：`customs`と複数形になると、「税関」という全く違う意味も持ちます。`You have to go through customs at the airport.`（空港では税関を通らなければならない）。社会的な`custom`と個人的な`habit`の違いを理解しておくことが大切です。

25.

解答 ③

【解説】

正解は③の`expert`で、「専門家、熟練者、エキスパート」を意味します。特定の分野において、長年の経験や学習によって深い知識や優れた技術を持っている人を指します。`He is an expert on computer security.`（彼はコンピュータセキュリティの専門家だ）。他の選択肢は、①`export`が「輸出」、②`effort`が「努力」、④`except`が前置詞で「～を除いて」という意味です。

◆補足：`expert`は形容詞として「熟練した、専門的な」という意味でも使われます。`We need some expert advice.`（私たちには専門家の助言が必要だ）。`an expert in/on a subject`で「～の分野の専門家」という形でよく使われます。

26.

解答 ②

【解説】

正解は②の`make the most of ~`で、「～を最大限に活用する」という意味です。手元にある機会、時間、能力、資源などを、可能な限り有効に、そして存分に使うことを表します。`We should make the most of this sunny day and go to the beach.`（この晴れた日を最大限に活用して、ビーチに行こう）。他の選択肢は、①`make the best of ~`が「(悪い状況下で) 何とかうまくやる、善処する」、③`make much of ~`が「～を重視する」、④`get the most of ~`は似ていますが、`make the most of`の方がより一般的な表現です。

◆補足：この表現は、ポジティブな状況で、その機会を十分に生かそうという文脈でよく使われます。`You're only young once, so make the most of it.`（若いうちは一度きりだから、それを最大限に楽しみなさい）。

27.

解答 ④

【解説】

正解は④の`theme`で、本、映画、会議、パーティーなどの中心となる考えや話題、つまり「主題、テーマ」を意味します。日本語の「テーマ」とほぼ同じように使えます。`The theme of this year's festival is "connections."`（今年のフェスティバルのテーマは「つながり」です）。他の選択肢は、①`team`が「チーム」、②`term`が「期間、学期」や「専門用語」、③`them`が`they`の目的格で「彼らを、彼女らを、それらを」という意味です。

◆補足：遊園地の`theme park`（テーマパーク）という言葉で馴染み深いですね。`theme song`は「主題歌」、`a central theme`は「中心的なテーマ」を意味します。

28.

解答 ④

【解説】

正解は④の`homestay`で、「ホームステイ、家庭滞在」を意味します。海外などを訪れた際に、ホテルや寮ではなく、現地の一般家庭に宿泊して生活を共にすることを指します。`I learned a lot about the local culture during my homestay.`（私はホームステイの間に地元の文化について多くを学んだ）。他の選択肢は、①`homework`が「宿題」、②`hometown`が「故郷」、③`household`が「世帯」という意味です。

◆補足：`do a homestay`や`go on a homestay`で「ホームステイをする」となります。滞在先の家族は`a host family`（ホストファミリー）、滞在する学生などは`a homestay student`と呼ばれます。

29.

解答 ②

【解説】

正解は②「目的」です。`purpose`は「目的、意図」を意味する名詞です。何かを行う理由や、達成しようとしている事柄を指します。`The main purpose of this meeting is to share information.`（この会議の主な目的は情報を共有することです）。①「提案」は`proposal`や`suggestion`、③「立場」は`position`、④「所有」は`possession`が適切な単語です。

◆補足：`on purpose`で「わざと、故意に」という重要な熟語になります。`I'm sorry, I didn't break the vase on purpose.`（ごめんなさい、わざと花瓶を割ったではありません）。`for the purpose of`で「～の目的で」となります。

30.

解答 ②

【解説】

正解は②「公共の、公衆の」です。形容詞の`public`は、特定の人だけでなく、社会のすべての人々に関わる、または利用できるものであることを示します。`The park is open to the public.`（その公園は一般に公開されている）。①「個人の、私的な」は`private`で、`public`の対義語です。③「人気のある」は`popular`、④「完璧な」は`perfect`が適切な単語です。

◆補足：`public`は名詞として「一般の人々、大衆」という意味でも使われます。`the general public`。`in public`という形で「人前で、公然と」という意味の熟語になります。コロケーション：`public transportation`（公共交通機関）、`public library`（公立図書館）、`public opinion`（世論）。

31.

解答 ②

【解説】

正解は②「(病気などで) 寝ている」です。`stay in bed`は、特に病気や体調不良のときに、安静にするためにベッドから出ずに過ごすことを表します。`I had a bad cold, so I stayed in bed all day.`（ひどい風邪をひいていたので、一日中寝ていた）。①「寝る、就寝する」は`go to bed`、③「(起きた後に) ベッドを整える」は`make the bed`、④「ベッドから起き上がる」は`get out of bed`という、それぞれ`bed`を使った異なる表現です。

◆補足：`stay`には「とどまる、～のままでいる」という意味があります。`stay home`（家にいる）や`stay positive`（前向きでいる）のように、ある場所や状態を「維持する」というニュアンスで使われます。

32.

解答 ④

【解説】

正解は④「実際には」です。`in practice`は、「実際上は、現実には」という意味の熟語です。理論(`in theory`)や計画と対比して、現実の状況がどうであるかを述べるときに使われます。`In theory, anyone can become a millionaire, but in practice, it's extremely difficult.`(理論上は誰でも億万長者になれるが、実際にはそれは極めて難しい)。①「練習中に」は`during practice`、②「慣習として」は`as a practice`、③「有効で」は`in effect`などが適切な表現です。

◆補足：`practice`には「練習」の他に「実践、実際」という意味があり、そこからこの熟語が成り立っています。`in theory`（理論上は）と`in practice`（実際には）は、対で覚えておくと非常に便利な表現です。

33.

解答 ②

【解説】

正解は②「恐怖、不安」です。名詞の`fear`は、危険や脅威を感じたときの「恐怖、恐れ」や、将来に対する「不安、心配」を意味します。`He has a great fear of spiders.`(彼はクモをひどく怖がる)。
`Many people live in fear of losing their jobs.`(多くの人々が職を失う不安を抱えて生きている)。①「公平さ」は`fairness`、③「運賃」は`fare`、④「失敗」は`failure`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`fear`は動詞として「～を恐れる、心配する」という意味でも使われます。`The sailors feared that a storm was coming.`(船乗りたちは嵐が来るのを恐れた)。
`for fear of ~`で「～を恐れて、～しないように」という熟語になります。

34.

解答 ②

【解説】

正解は②の`terribly`で、「ひどく、非常に」という意味の副詞です。形容詞や副詞を強調して、その程度が甚だしいことを表します。良い意味でも悪い意味でも使われます。`It was a terribly difficult exam.`(それはひどく難しい試験だった)。
`I'm terribly grateful for your help.`(あなたの助けに非常に感謝しています)。他の選択肢は、①`terrifically`が「ものすごく、すばらしく」、③`truly`が「本当に」、④`terrified`が形容詞で「(人が) ひどく怖がって」という意味です。

◆補足：`terrible`（ひどい、恐ろしい）という形容詞の副詞形ですが、`terrific`（すばらしい）という見た目が似ているのに意味が正反対の単語があるので注意が必要です。`terribly`は`awfully`とほぼ同じ意味で、`very`の強調形として使われます。

35.

解答 ④

【解説】

正解は④「～にもかかわらず」です。`despite`は前置詞で、ある事柄が存在するにもかかわらず、それが予想される結果を妨げないことを示します。`Despite the bad weather, they decided to go ahead with the picnic.`(悪天候にもかかわらず、彼らはピクニックを強行することに決めた)。①「～の間に」は`during`、②「～を除いて」は`except`、③「～の代わりに」は`instead of`が適切な単語です。
◆補足：`despite`は`in spite of`と全く同じ意味で、書き換えが可能です。どちらも後ろには名詞または動名詞(-ing 形)が続きます。接続詞の`although`（～だけれども）と意味は似ていますが、`although`の後ろには`主語 + 動詞`の文が続くという文法的な違いがあります。

36.

解答 ①

【解説】

正解は①「コーチ、指導員、(長距離)バス」です。名詞の`coach`には、主に二つの意味があります。一つは、スポーツチームの「コーチ、監督」や、個人指導を行う「指導員」です。もう一つは、特にイギリス英語で、都市間などを走る「長距離バス」を指します。`I took a coach from Oxford to Cambridge.`(私はオックスフォードからケンブリッジまで長距離バスに乗った)。②「玉座」は`throne`、③「海岸」は`coast`、④「石炭」は`coal`です。

◆補足：`coach`は動詞として「～を指導する」という意味でも使われます。`He coached the high school basketball team.`(彼は高校のバスケットボールチームを指導した)。飛行機の「エコノミークラス」の座席を`coach class`と呼ぶこともあります。

37.

解答 ④

【解説】

正解は④の`correct`で、形容詞として「正しい、正確な」、動詞として「～を訂正する、修正する」という二つの意味を持ちます。形容詞の例: `That's the correct answer.`(それが正解です)。動詞の例: `Please correct any spelling mistakes.`(スペルミスがあれば訂正してください)。他の選択肢は、①`collect`が「～を集める」、②`connect`が「～をつなぐ」、③`direct`が「～を指示する」という意味です。

◆補足：対義語は、否定の接頭辞`in-`を付けた`incorrect`（不正確な）です。名詞形は`correction`（訂正）です。`right`も「正しい」ですが、`correct`は特に、事実や基準に照らして間違いがない、というニュアンスで使われます。

38.

解答 ①

【解説】

正解は①「～を下に置く、書き留める」です。`put down ～`は、主に二つの意味を持つ句動詞です。一つは、持っている物を「～を下に置く」という意味です。`She put down her heavy bags and took a rest.`（彼女は重いカバンを下に置いて休憩した）。もう一つは、情報や考えなどを「～を書き留める、記録する」という意味です。`I put down his phone number on a piece of paper.`（私は彼の電話番号を紙片に書き留めた）。②「～を延期する」は`put off ～`、③「～を我慢する」は`put up with ～`、④「～を片付ける」は`put away ～`です。

◆補足：`put down ～`には、他にも「(反乱など)を鎮圧する」や「(頭金)を支払う」、口語で「(人)をけなす」といった多様な意味があります。文脈に応じて意味を判断する力が必要ですが、準2級レベルではまず「置く」「書き留める」の二つの意味をしっかりと押さえましょう。

39.

解答 ②

【解説】

正解は②の`airline`で、「航空会社」を意味します。`air`（空）と`line`（路線）が組み合わさった単語で、乗客や貨物を飛行機で運ぶ事業を行う会社を指します。`I booked my ticket on a budget airline.`（私は格安航空会社でチケットを予約した）。他の選択肢は、①`airport`が「空港」、③`airplane`が「飛行機」、④`airway`が「航空路」や「(人体の)気道」という意味で、いずれも航空関連用語ですが意味は異なります。

◆補足：`an airline pilot`（航空会社のパイロット）、`an airline passenger`（航空会社の乗客）。`airline industry`で「航空業界」となります。

40.

解答 ③

【解説】

正解は③「転ぶ、倒れる」です。`fall down`は句動詞で、立っていた人や物が、地面に倒れることを表します。`The child fell down and started to cry.`（その子供は転んで泣き出した）。①「恋に落ちる」は`fall in love`、②「病気になる」は`fall ill`や`get sick`、④「落ち込む」は`feel down`や`get depressed`などが適切な表現です。

◆補足：`fall down`と似た表現に`fall over`があります。`fall over`は、何かにつまずいて「転ぶ」というニュアンスで使われることが多いです。`He tripped over a rock and fell over.`（彼は石につまずいて転んだ）。`fall`の活用は`fall - fell - fallen`と不規則に変化する点にも注意が必要です。

41.

解答 ④

【解説】

正解は④の`painful`で、「痛い、痛みを伴う、つらい」という意味の形容詞です。肉体的な痛みだけでなく、精神的な苦痛や、骨の折れるようなつらい状況を表すのにも使われます。`The injection was less painful than I expected.`（その注射は私が予想していたよりも痛くなかった）。他の選択肢は、①`powerful`が「力強い、強力な」、②`peaceful`が「平和な、穏やかな」、③`playful`が「遊び好きな、ふざけた」という意味です。

◆補足：`painful`は名詞`pain`（痛み、苦痛）に、`full`（～に満ちた）を意味する接尾辞`-ful`が付いてできた形容詞です。「痛みに満ちた」と考えると意味が分かりやすいですね。副詞形は`painfully`（痛々しく、ひどく）です。

42.

解答 ②

【解説】

正解は②「A を（車などに）乗せてやる」です。`give A a ride`は、「A を（自分の車や自転車などに）乗せて、どこかへ連れて行ってあげる」という意味の熟語です。`A`には人が入ります。`My car is broken, so my father gave me a ride to work.`（私の車が壊れていたので、父が職場まで乗せてくれた）。①「A に助言を与える」は`give A some advice`、③「A に電話をかける」は`give A a call`、④「A に機会を与える」は`give A a chance`などが適切な表現です。

◆補足：`get a ride`で「（車などに）乗せてもらう」という逆の立場を表すことができます。`Could I get a ride with you?`（あなたの車に乗せてもらえますか？）。`Thanks for the ride.`（乗せてくれてありがとう）は、降車時の感謝の言葉として使えます。

43.

解答 ②

【解説】

正解は②「～を発達させる、開発する」です。`develop`は、子供が成長すること、国が経済的に発展すること、新しい技術や製品を開発することなど、物事がより進歩した、あるいは複雑な段階へと変化していく過程を表す動詞です。`The company is developing a new type of software.`（その会社は新しい種類のソフトウェアを開発している）。①「～を配達する」は`deliver`、③「～を分割する」は`divide`、④「～を決定する」は`decide`です。

◆補足：名詞形は`development`（発達、開発）です。`urban development`（都市開発）。写真の「現像」も`develop`と言います。自動詞として「発展する、成長する」という意味でも使われます。`The small village developed into a large city.`（その小さな村は大きな都市へと発展した）。

44.

解答 ②

【解説】

正解は②「多くても、せいぜい」です。`at (the) most`は、数量や程度が、ある基準より多くはない、その数値が上限であることを示す熟語です。`The whole process will take two weeks at most.`（全工程は、長くても2週間しかかからないだろう）。①「少なくとも」は`at least`で、`at most`の対義語です。③「ほとんどの場合」は`in most cases`、④「全く」は否定文で`at all`を使います。

◆補足：`at most`の`the`は省略されることもあります。前の問題の`at least`（少なくとも）と対で覚えておくと、数量表現の幅が広がります。`not more than`とほぼ同じ意味で使えます。

45.

解答 ①

【解説】

正解は①「まるで…かのように」です。`as if…`は接続詞句で、事実とは異なる、あるいは事実かどうか不確かな、比喩的な状況を表すのに使います。`He acts as if he were the boss.`（彼はまるで自分が上司であるかのようにふるまう）。②「たとえ…だとしても」は`even if …`、③「…するとすぐに」は`as soon as …`、④「…である限りは」は`as long as …`です。

◆補足：`as if`の後ろの節では、仮定法が使われることが多く、動詞が過去形（例: `knew`）や`were`になるのが特徴です。`She looked at me as if I were a stranger.`（彼女はまるで私が見知らぬ人であるかのように私を見た）。`as though`も`as if`とほぼ同じ意味で使うことができます。

46.

解答 ④

【解説】

正解は④「～を表現する」です。動詞の`express`は、考えや感情などを、言葉、表情、芸術、行動などで「言い表す、表現する」ことを意味します。`She expressed her gratitude with a warm smile.`（彼女は温かい微笑みで感謝の気持ちを表現した）。①「～を説明する」は`explain`、②「～を探検する」は`explore`、③「～を交換する」は`exchange`がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：`express`は名詞として「急行列車」、形容詞として「急行の、速達の」という意味もあります。`an express train`（急行列車）。名詞形の`expression`は「表現、表情」を意味します。`freedom of expression`（表現の自由）。

47.

解答 ③

【解説】

正解は③の`go ahead`で、主に二つの意味で使われます。一つは、相手に何かをすることを許可して「どうぞ、お先にどうぞ」と言う場合です。`"Can I ask you a question?" "Sure, go ahead."`（「質問し

てもいいですか?」「ええ、どうぞ」)。もう一つは、計画や作業などを「進める、実行する」という意味です。`The government decided to go ahead with the construction project.` (政府はその建設計画を進めることを決定した)。他の選択肢は、①`go away`が「立ち去る」、②`go over`が「～を復習する」、④`go through`が「～を経験する」という意味です。

◆補足：`go ahead`は、許可を求められた際の返答として非常に便利で、日常会話で頻繁に使われます。`ahead`には「前方へ」という意味があり、そこから「先に進む」というニュアンスが生まれています。

48.

解答 ②

【解説】

正解は②「魅力的な」です。`attractive`は、人の外見が「魅力的な、美しい、ハンサムな」であることや、場所、物、提案などが「人を引きつける、興味をそそる」ものであることを示す形容詞です。`She wore a very attractive dress to the party.` (彼女はパーティーにとっても魅力的なドレスを着ていった)。`They made me an attractive offer.` (彼らは私に魅力的な申し出をしてきた)。①「活動的な」は`active`、③「代わりの」は`alternative`、④「積極的な」は`aggressive`です。

◆補足：`attractive`は動詞`attract` (～を引きつける、魅了する) の形容詞形です。名詞形は`attraction` (魅力、人気のある場所・もの) で、`a tourist attraction` (観光名所) という形でよく使われます。

49.

解答 ①

【解説】

正解は①「～に似合う、～に適する」です。動詞の`suit`は、主に二つの意味があります。一つは、色や服装、髪型などが「(人) に似合う」という意味です。もう一つは、目的や状況、人などに「～に適する、好都合である」という意味です。`The color red doesn't really suit me.` (赤は私にはあまり似合わない)。`Let's find a time that suits everyone.` (みんなに都合のよい時間を見つけましょう)。②「～に座る」は`sit`、③「～を撃つ」は`shoot`、④「～を共有する」は`share`です。

◆補足：`suit`と`fit`はどちらも「合う」と訳せますが、`fit`がサイズや形が物理的に「合う」ことを指すのに対し、`suit`は色やスタイル、状況への適合性を指します。形容詞形は`suitable` (適した) です。また、名詞の`suit`は「スーツ」です。

50.

解答 ②

【解説】

正解は②「監督、取締役」です。`director`は、映画や劇の「監督」、または会社の「取締役、重役」を意味する名詞です。組織やプロジェクトの方向性を決定し、指導する立場の人を指します。`He is one of the most respected directors in Hollywood.`（彼はハリウッドで最も尊敬されている監督の一人だ）。①「医者」は`doctor`、③「探偵」は`detective`、④「運転手」は`driver`です。

◆補足：`director`は動詞`direct`（～を指揮する、監督する、道を教える）から派生した言葉です。名詞の`direction`は「方向、指示」を意味します。`board of directors`で「取締役会」となります。
